

立教経済学研究 総目次 (八十周年記念号第八卷第二号以降)

第九卷 第一号 昭和三十年五月

論文

「資本主義の基本的矛盾」

についての簡単な考察 (完) 山本二三九

『資本論』の体系と著述プラン (承前) 三宅 義夫

アメリカ植民地における

民主主義と民族独立の闘い (一) 宇治田富造

民法学研究についての一考察 宮川 澄

資料・紹介

フランスにおける金融資本 (二) 神野璋一郎

F.T.S. 報告「重役兼任」 立入広太郎

戦後日本における会計監査制度について (二) 中村 清

——とくに証券取引法による公認会計士の監査制度について——

S・P・ガーナー著「原価計算発達史」について 敷田 禮二

第九卷 第二号 昭和三十一年一月

論文

再生産論 山本二三九

いわゆる「最盛期」における

イギリス・マナーの流通機構 近藤 晃

——運搬賦役を中心として——

十九世紀末葉における 敷田 禮二

アメリカ工業会計制度の発展 敷田 禮二

アメリカ植民地における

民主主義と民族独立の闘い (二) 宇治田富造

民法学研究についての一考察 (二) 宮川 澄

国家権力の強化と地方自治 藤田 武夫

——現段階において地方自治をいかに促えるか——

資料

F.T.S. 「報告重役兼任」 (三) 立入広太郎

第十卷 第一号 昭和三十一年六月

論文

一八四七年恐慌 三宅 義夫

——『資本論』第三部第五篇の解明のために——

十二、三世紀開墾地域における

村落共同体の形成過程 鵜川 馨

—英国東部の一世俗領に関する分析—

民法学研究についての一考察(完)……………宮川 澄

展 望

『全集』以後のリスト研究……………小林 昇

第十卷 第二号 昭和三十一年十一月

論 文

一八七〇年代およびそれ以後の

恐慌についてのマルクス、エンゲルスの見解……………三宅 義夫

市場価格と市場価値(五)……………山本二三丸

—価値法則論を中心として—

アメリカ工業会計制度確立過程における諸問題……………敷田 禮二

—「独占成立・拡大期型」工業会計制度の特徴について—

紹 介

M・Eキヤラスーウィルソン著「中世の

マーチャント・ヴェンチュアラーズ」……………近藤 晃

第十卷 第三号 昭和三十二年二月

論 文

アダム・スミスにおける賃銀……………小林 昇

一八七〇年代およびそれ以後の恐慌についての

マルクス、エンゲルスの見解(二)……………三宅 義夫

蓄蔵貨幣論(二)……………小林 威雄

民法におけるいわゆる『公共の福祉』

理論について……………宮川 澄

展 望

十二世紀「金納化」問題……………近藤 晃

—ポスタンとレナードの論争を中心として—

第十一卷 第一号 昭和三十二年六月

論 文

市場価格と市場価値(完)……………山本二三丸

—価値法則論を中心—

一八五七年恐慌……………三宅 義夫

アダム・スミスにおける賃銀(二)……………小林 昇

初期ウェーバーの資本主義成立史論……………住谷 一彦

—ドイツ資本主義社会分析に関する思想体系研究序論—

企業の成長と経営の多角化……………

—経営結合への諸契機に関する覚え書—

民法におけるいわゆる『公共の福祉』理論……………宮川 澄

について(完)……………

第十一卷 第二号 昭和三十一年十一月

論 文

「平均利潤の法則」と「最大限利潤の法則」……………山本二三丸

一八五七年恐慌(二)……………三宅 義夫

フリードリヒ・リストの「土地制度」論……………住谷 一彦

予算統制制度の生成史序論……………敷田 禮二

企業の成長と経営の多角化(完)……………宮川 宗弘

市民法の生成と解体……………宮川 澄

展望・紹介・資料

十二世紀の「金納化」問題(二)……………近藤 晃

「恐慌論」に関する最近の二文獻……………川鍋 正敏

伊豆国賀茂郡宇佐美村杉山家文書目録

附論 近世一半農半漁村における領主の支配構造

第十一卷 第三号 昭和三十三年二月

論文

「平均利潤の法則」と「最大限利潤の法則」(一)……山本二三丸
— 価値法則論を中心として —

一八五七年恐慌(三)……………三宅 義夫

フリードリヒ・リストの「土地制度」論(二)……………住谷 一彦

— ドイツ資本主義と土地制度

— に関する思想史的研究の一試論 —

市民法の生成と解体(二)……………宮川 澄

紹介

O・M・ディッカーソン著

『航海条令とアメリカ革命』……………宇治由富造

Sanar Ranjan Sen, The Economics of

Sir James Stewart……………小林 昇

第十二卷 第一号 昭和三十三年六月

論文

昭和十五年の地方税制改革……………藤田 武夫

— 国家独占資本主義と地方収入の構造 —

「平均利潤の法則」と「最大限利潤の法則」(三)……山本二三丸

— 価値法則論を中心として —

一八五七年恐慌(四)……………三宅 義夫

重商主義解体期における貨幣・貿易理論……………小林 昇

— 羽鳥卓也氏の新説について —

研究ノート

分権的経営管理の展開……………宮川 宗弘

— Chandler による実証的研究の紹介をかねて —

Oikoumenè……………住谷 一彦

— 文化成長 Culture Growth に関する一考察 —

第十二卷 第二号 昭和三十三年十月

論文

「平均利潤の法則」と「最大限利潤の法則」(完)……山本二三丸

— 価値法則論を中心として —

「鑄貨準備金」について……………小林 威雄

改革前わが国小作料の地代論的考察……………井上 周八

市民法の生成と解体(三)……………宮川 澄

研究ノート

「固定資本の更新」および「資本主義的

生産の制限性」の問題について……………川鍋 正敏

中世家族についての史的研究の一動向……………鶴川 馨

第十二卷 第三号 昭和三十三年十二月

論文

ジュイムズ・ステュアートとグレゴリー・

キング.....小林 昇

—ステュアートにおける経済循環の把握について— 三宅 義夫

一八五七年恐慌(五).....宮川 澄

市民法の生成と解体(四).....宮川 澄

研究ノート.....藤田 武夫

戦時下の国家投資.....藤田 武夫

—日本における国家投資についての一覚書— 敷田 禮二

利益計画と予算統制制度の実態分析.....宮川 宗弘

分権の経営管理の展開(完).....宮川 宗弘

第十二卷 第四号 昭和三十四年三月

—分権の内容、その限界について—

地方財政調整交付金論序説.....藤田 武夫

—ハンセンの所説の批判を通じて— 山本二三丸

科学的経済理論の創造的發展について.....内藤 則邦

「退職積立金及退職手当法」成立史論.....内藤 則邦

—日本労働保護立法の一研究— 宇治田富造

イギリス重商主義と旧植民地体制.....宇治田富造

—十三世紀イングランドにおける— 近藤 晃

—封建的市場構造「前前期」把握への一操作—

第十三卷 第一号 昭和三十四年六月

論文

ステュアート『原理』の歴史的背景.....小林 昇

—ジュイムズ・ステュアートと農業革命— 藤田 武夫

日本における地方財政調整交付金の発達.....山本二三丸

科学的経済理論の創造的發展について(二).....宇治田富造

イギリス重商主義と旧植民地体制(二).....宮川 澄

市民法の生成と解体(完).....宮川 澄

研究ノート.....井上 周八

「農民的分割地所有」の基礎的考察.....井上 周八

第十三卷 第二号 昭和三十四年十月

—「差額地代」の基本的考察— 小林 威雄

支払手段の準備金について.....井上 周八

科学的経済理論の創造的發展について(三).....山本二三丸

—十三世紀イングランドにおける— 近藤 晃

—羊毛輸出貿易とその基盤(統)—.....近藤 晃

—封建的市場構造(前前期)把握への一操作— 宇治田富造

イギリス重商主義と旧植民地体制(三).....藤田 武夫

第十三卷 第三号 昭和三十四年十二月

—日本における地方財政調整交付金の発達(二)—.....藤田 武夫

論文.....近藤 晃

ケネーの「経済表」について.....広田 純

科学的経済理論の創造的發展について(四).....山本二三丸

一八五七年恐慌(六)……………三宅 義夫
日本における地方財政調整交付金の発達(三)……………藤田 武夫
社会法の構造と理念……………宮川 澄

第十三卷 第四号 昭和三十五年二月一日

目次

河西太一郎先生近影

刊行の辞

第一部

労賃論の根本問題……………山本二三丸

— 価値法則論を中心として —

「蓄蔵貨幣の第一形態」について……………小林 威雄

差額地代第二形論における

市場生産価格の形成原理について……………井上 周八

外国為替相場小論……………三宅 義夫

— 小野朝男氏の「為替インフレーション」論によせて —

恐慌把握に関する覚え書……………川鍋 正敏

— いわゆる「内在的矛盾」を中心として —

ステュアート『原理』における人口と農業生産力……………小林 昇

マルクスの「生産的労働」論……………広田 純

ケンブリッジ学派のスムール・

ビジネス論について……………加藤 誠一

ソヴェト経済学における

最近の数理的形式主義について……………山田耕之介

第二部

初期独占論……………大塚 久雄

— その経済学的把握の素描 —

アメリカ奴隷制度発生の一考察……………宇治田富造

議會絵画と小土地所有に関する覚書……………岡野 昇一

— 一八・一九世紀エンクロウジュア研究 —

ドイツ領邦絶対主義の「ブルジョア」

的土地改革について……………松田 智雄

第三部

石鹼工業の創始……………榊西 光速

— 堤石鹼製造場について —

藤田農場の成立と崩壊……………近藤 康男

労働組合主義の形成について……………内藤 則邦

日本財閥に関する若干の覚書……………立入広太郎

— 昭和十二年の三井物産 —

財源調整強化論の地位……………藤田 武夫

— 「財政調整」から「財源調整」へ —

第四部

アジア研究と先進資本主義国用のいわゆる

一般理論について……………飯塚 浩二

東南アジアの国際的地位と性向……………上坂 酉三

— 日本貿易の政策的基調からみたる —

香港……………向井 梅次

——とくに仲縦貿易近年の動向——

ソ同盟におけるコルホーズの共同事業にかんして……池田 顯昭
IG染料とアメリカ資本……神野璋一郎

第五部

インダストリアル・エンジニアリングと労働組合……米田 清貴

——時間研究を中心として——

近代割賦販売信用の會計的考察……品田 誠平

有価証券貸借の會計処理について……中村 清

第六部

労働刑法犯罪の罪質と犯意……熊倉 武

——労働基準法・六三条二項違反罪に関連させて——

農家の相統形態……宮川 澄

——実態調査と検討——

河西太一郎先生略歴および著書

第十四卷 第一号 昭和三十五年六月

論文

絶対地代論とその問題点……井上 周八

科学的經濟理論の創造的發展について(五)……山本二三丸

一八五七年恐慌(七)……三宅 義夫

「蓄積貨幣の第二形態」について……小林 威雄

石田梅岩の思想とその背景(上)……逆井 孝仁

——石門心学成立の歴史的意義について——

「社会法の構造と理念」(二)……宮川 澄

資料

ヘンリー・ヘスの経営計画論(一)……敷田 礼二

第十四卷 第二号 昭和三十五年十月

論文

科学的經濟理論の創造的發展について(完)……山本二三丸

ステュアート『原理』における「利潤」について……小林 昇

——『原理』第二編の分析(一)——

Firmarri 考……田中 正義

両大戦間におけるイギリス鉄鋼業の独占(上)……山本 秀雄

研究ノート

「保算費」について……井田喜久治

——流通費の研究(二)——

「資本主義」論の形成と展開……住谷 一彦

——アウグスト・M・クノル教授の「資本主義」論——

資料

ヘンリー・ヘスの経営計画論(二)……敷田 禮二

第十四卷 第三号 昭和三十五年十二月

論文

「優等地の絶対地代」について……井上 周八

一八世紀前半イギリス金属工業の生産構造……大河内暁男

——いわゆる一七五〇年の「鉄条令」について——

「退職積立金及退職手当法」成立史論(二)……内藤 則邦

——日本労働保護立法の一研究——

石田梅岩とその背景(下)……………逆井 孝仁

—石門心学成立の歴史的意義について—

分権制とトランスファー・プライス……………高橋 昭三

社会法の構造と理念(完)……………宮川 澄

紹介

イギリス農村工業の成立とその史料……………近藤 晃

—キヤラス・ウィルソンの近業によせて—

第十四卷 第四号 昭和三十六年二月

論文

人間の労働の経済学的考察(一)……………山本二三丸

蓄蔵貨幣の銀行への集積について……………小林 威雄

恐慌把握に関する覚え書……………川鍋 正敏

—『資本論』第三卷第三篇第十五章をめぐって—

議會インクローウジャの歴史的性格に関する一考察……………岡野 秀雄

—一八・一九世紀インクローウジャ研究—

両大戦間におけるイギリス鉄鋼業の独占(下)……………山本 秀雄

紹介

『社会主義農業における地代』……………井上 周八

—M・B・ロモノソフ名称モスクワ国立大学、国立出版所、一九五九年—

第十五卷 第一号 昭和三十六年六月

論文

一八五七年恐慌(完)……………三宅 義夫

賃銀論はいかにあるべきか?(前篇)……………山本二三丸

—修正主義的諸偏古の克服のために—

フリードリヒ・リストの歴史認識について(一)……………住谷 一彦

—リスト「農業・工業・商業の關係」

ならびに古代の経済史に関して—

割購販売の外貌と内包……………品田 誠平

法の相対的独自性について(一)……………宮川 澄

紹介

『社会主義農業における地代』(続・完)……………井上 周八

—M・B・ロモノソフ名称モスクワ国立大学、ゴスプラン出版所、一九五九年—

第十五卷 第二号 昭和三十六年十月

論文

蓄蔵貨幣の研究(一)……………小林 威雄

一八六六年恐慌……………三宅 義夫

賃金論はいかにあるべきか?(後篇)……………山本二三丸

—修正主義的諸偏向の克服のために—

両大戦間におけるイギリス綿業の独占形態(一)……………山本 秀雄

研究ノート

「運輸費」について……………井田喜久治

—流通費の研究(二)—

資料

経済における数学的方法……………山田耕之助

—《経済学の諸問題》一九六〇年八月—

第十五卷 第三号 昭和三十六年十二月

論文

資本予算の基本問題……………高橋 昭三

—長期固定化投資の価値測定基準について—

一九世紀前半ウィルトンシャ毛織物工業における

織元の経営動向……………大河内暁男

—クラーク家の経営方針—

社会主義社会における差額地代の存在について……………井上 周八

人間の労働の経済学的考察(一)……………山本二三丸

蓄蔵貨幣の研究(二)……………小林 威雄

法の相対的独自性について(完)……………宮川 澄

第十五卷 第四号 昭和三十七年二月

論文

英封建制の形成と「ノルマン征服」……………田中 正義

ソヴェト社会主義社会における

差額地代の問題点について……………井上 周八

一八六六年恐慌(二)……………三宅 義夫

人間の労働の経済学的考察(三)……………山本二三丸

蓄蔵貨幣の研究(三)……………小林 威雄

旧民法と明治民法……………宮川 澄

第十六卷 第一号 昭和三十七年五月

論文

独占段階における地方自治……………藤田 武夫

—イギリスにおける変遷を中心として—

ウィリアム・ウッドの植民地論について……………宇治田富造

フリードリヒ・リストの歴史的認識について(二)……………住谷 一彦

—リスト「農業・工業商業の關係

ならびに古代の経済史に関して」—……………山本 秀雄

両大戦間におけるイギリス綿業の独占形態(二)……………三宅 義夫

一八六六年恐慌(三)……………小林 威雄

蓄蔵貨幣の研究(四)……………山本二三丸

人間の労働の経済学的考察(四)……………山本二三丸

第十六卷 第二号 昭和三十七年七月

論文

スチュアート『原理』における

「奢侈」について(一)……………小林 昇

産業資本確立期における

「鉄工」の形成と陶冶について……………内藤 則邦

コンビナートの基本的性格と成立の条件……………宮川 宗弘

蓄蔵貨幣の研究(五)……………小林 威雄

人間の労働の経済学的考察(五)……………山本二三丸

旧民法と明治民法(二)……………宮川 澄

第十六卷 第三号 昭和三十七年十一月

論文

「生産的および不生産的労働」について……………広田 純

「商品取扱資本」について……………井田喜久治

マックス・ヴェーバーの「世襲財産」論……………住谷 一彦

—「ドイツ資本主義と土地制度」の思想的的研究—

会社支配と株式の分散……………三戸 公

企業ヴァウチャー・システム

におけるヴァウチャーの意義……………品田 誠平

ステュアート『原理』における

「奢侈」について(二)……………小林 昇

人間の労働の経済学的考察(六)……………山本二三丸

紹介

N・N・コゾドエフ

『社会主義諸国における土地関係』……………井上 周八

第十六巻 第四号 昭和三十八年二月

論文

いわゆる「構造改革論」の理論的性格……………山本二三丸

一八六六年恐慌(元)……………三宅 義夫

仁斎学の歴史的性格とその基盤……………逆井 孝仁

—「古学派」検の再討のために—

旧民法と明治民法(三)……………宮川 澄

第十七巻 第一号 昭和三十八年六月

論文

十三世紀イングランド北部における

世俗領の研究……………鵜川 馨

—Isabella de Fortibus の Holderness 領—

日本資本主義の米価問題……………井上 周八

いわゆる「構造改革論」の理論的性格(二)……………山本二三丸

蓄蔵貨幣の研究(六)……………小林 威雄

ステュアート『原理』における

「奢侈」について(三回完)……………小林 昇

旧民法と明治民法(四)……………宮川 澄

第十七巻 第二号 昭和三十八年七月

論文

シャウブ勧告の再評価……………藤田 武夫

—「地方税財制度改革案を中心として—

「バーナム経営者革命論」批判……………三戸 公

日本資本主義の米価問題(二)……………井上 周八

いわゆる「構造改革論」の理論的性格(三)……………山本二三丸

蓄蔵貨幣の研究(七)……………小林 威雄

旧民法と明治民法(五)……………宮川 澄

第十七巻 第三号 昭和三十八年十一月

論文

「商業利潤」について……………井田喜久治

ステュアート『原理』における貨幣制度論(一)……………小林 昇

—「原理」第三編の一研究—

「鉄工業」における労務管理の形成……………内藤 則邦

「寄生地主制」研究に関する一考察……………逆井 孝仁

—その分析方法の再検討について—

一八世紀初頭における

イギリス重商主義の植民地経営(上)……………宇治田富造

—Naval Stores Policy を中心として—

十三世紀イングランド北部における世俗領の研究……………鵜川 馨

—Isabella de Foribus : Holderness 領—

蓄蔵貨幣の研究(八・完)……………小林 威雄

「バーナム経営者革命論」批判(下)……………三戸 公

第十七巻 第四号 昭和三十九年二月

論文

イギリス工鉱業における作業場および

土地の賃貸借制の展開とその意義……………大河内暁男

ステュート『原理』における貨幣制度論(二)……………小林 昇

いわゆる「構造改革論」の理論的性格(四)……………山本二三丸

日本資本主義の米価問題(三)……………井上 周八

ゴードン「ビジネス・リーダーシップ」批判……………三戸 公

旧民法と明治民法(六)……………宮川 澄

研究

価値の生産価格への転形について……………水谷 謙治

—いわゆる「転形問題」の検討—

ドイツ「三月革命」期の独占問題(一)……………肥前 栄一

—「プロイセン王立海外貿易会社」をめぐる—

第十八巻 第一号 昭和三十九年六月

論文

中小企業の統一原価計算制度

の普及運動について(一)……………敷田 禮二

一八世紀初頭における

イギリス重商主義の植民地経営(中)……………宇治田富造

—Naval Stores Policy を中心として—

イギリス工鉱業における作業場および

土地の賃貸借制の展開とその意義(二)……………大河内暁男

いわゆる「構造改革論」の理論的性格(五)……………山本二三丸

紹介

社会主義における地代……………井上 周八

—『経済学の諸問題』誌上における地代論争

(一九六〇年五月〜六二年十月)に寄せら

れた未発表論文と手紙の概要—

第十八巻 第二号 昭和三十九年八月

論文

いわゆる「構造改革」の理論的性格(六)……………山本二三丸

一八世紀初頭における

イギリス重商主義の植民地経営(下)……………宇治田富造

—Naval Stores Policy を中心として—

中小企業の統一原価計算制度の

普及運動について(二)……………敷田 禮二

第二次世界戦争における東ドイツの

民主的農地改革にかんする二、三の問題……上杉重二郎
仁齋学の歴史的性格とその基盤……逆井 孝仁

「古学派」の再検討のために——
旧民法と明治民法(完)……………宮川 澄

第十八卷 第三号 昭和三十九年十二月

論文

「資本としての貨幣」について……………広田 純

—宇野・鈴木両氏の利子論の検討—

初期アングロサクソン国家に野ける王領……………田中 正義

—前封建国家の歴史的性格 その一—

個別資本の規定について……………三戸 公

—経営学の対象—

複式簿記の形成論理の検討……………茂木 虎雄

イギリス工鉱業における作業場および

土地の質賃借制度の展開とその意義(三)……………大河内暁男

研究

「価値の誘導(Cie Ableitung des Werts)」

について……………大木 啓治

—『経済学批判』から『資本論』現行版

へいたる改訂の検討を論じて—

—国資本主義分析の基本的意味について……………水谷 謙治

—『ロシアにおける資本主義の発達』

と『帝国主義論』との検討—

第十八卷 第四号 昭和四十年二月

論文

ドラッカー経営思想の研究……………三戸 公

中小企業の統一原価計算制度の

普及運動について(三)……………敷田 禮二

「資本としての貨幣」について(完)……………広田 純

—宇野・鈴木両氏の利子論の検討—

いわゆる「構造改革論」の理論的性格(七)……………山本二三丸

初期アングロサクソン国家における自由民……………田中 正義

—前封建国家の歴史的性格 その二—

十三世紀イングランド北部における
世俗領の研究(三)……………鶴川 馨

—Isabella de Foribus・Holderness領—

石門心学の意義と限界……………逆井 孝仁

—その通俗道徳への転落について—

一九四六年四月東部ドイツにおけるドイツ
共産党とドイツ社会民主党との合同について……上杉重二郎

研究

両大戦間におけるドイツ独占資本の

再編と経済政策(上)……………岡本 友孝

—国家独占資本主義成立過程の一局面—

第十九卷 第一号 昭和四十年五月

論文

日本資本主義の米価問題(四)……………井上 周八
いわゆる「構造改革論」の理論的性格(八)……………山本二三丸
わが国における「簿記理論」の展開……………茂木 虎雄

研究

両大戦間における

ドイツ独占資本の再編と経済政策(中)……………岡本 友孝

—国家独占資本主義成立過程の一局面—

第十九卷 第二号 昭和四十年九月

論文

いわゆる「構造改革論」の理論的性格(完)……………山本二三丸

日本資本主義の米価問題(五)……………井上 周八

研究

両大戦間における

ドイツ独占資本の再編と経済政策(下)……………岡本 友孝

—国家独占資本主義成立過程の一局面—

学 界

リスト文献とリスト文庫……………小林 昇

紹 介

紹介、カール・ドレクスラー『ドイツと中国』日本

一九三三—一九三九年、ドイツ極東政策のディレムマ』

……………上杉重二郎

第十九卷 第三号 昭和四十年十二月

論 文

近代的所有権の構成と形成……………宮川 澄

—日本民法における所有権の法的性格をめぐって—

価値の大きさを規定する労働分量について……………大木 啓治

—『経済学批判』から『資本論』

現行版へいたる改訂の検討を通して—

資産評価の歴史の経緯……………茂木 虎雄

—いわゆる「棚卸資産」を中心として—

日本資本主義の米価問題(六)……………井上 周八

中小企業の統一原価計算制度の普及

運動について(完)……………敷田 禮二

研 究

ドイツ「三月革命」期の独占問題(二)……………肥前 栄一

—「プロイセン王立海外貿易会社」をめぐって—

紹介 青年リストの伝記的諸問題……………小林 昇

第十九卷 第四号 昭和四十一年一月

論 文

現代大企業の意義と機能……………三戸 公

—ドロッパカー経営思想批判—

企業の投資決定論の基本的性格……………高橋 昭三

—割引現金流入法をめぐる諸問題の検討を中心として—

十三世紀イングランド北部における

世俗領の研究(完)……………鶺鴒 馨

— Isabella de Fortibus の Holderness 領 —

日本資本主義の米価問題 (完) 井上 周八

近代的所有権の構成と形成 (二) 宮川 澄

— 日本民法における所有権の法的性格をめぐって —

研究ノート

低開券国貿易の趨勢と問題点 丹羽 克治

第二十卷 第一号 昭和四十一年五月

論文

再生産論 (『資本論』・二卷三篇) の成立

にこころ (一) 水谷 謙治

第一次大戦直後の日本労働組合研究 内藤 則邦

簿記組織の歴史的發展 茂木 虎雄

企業の投資決定論の基本的性格 (二) 高橋 昭三

— 割引現金流入法をめぐる諸問題の検討を中心として —

書評

産業革命史の新研究二点 大河内曉男

第二十卷 第二号 昭和四十一年七月

故須之内品吉先生追悼の辞

故須之内品吉先生略歴

論文

流通手段の前貸と資本の前貸 (上) 久留間 健

リスト「農地制度」の前史と周辺 小林 昇

メーヨーイズム小論 三戸 公

— 疎外論ノート —

地方公営企業と独立採算制 山本 秀雄

— 地方公営企業制度調査会答申について —

再生産論 (『資本論』二卷三篇) の成立

について (二) 水谷 謙治

近代的所有権の構成と形成 (三) 宮川 澄

— 日本民法における所有権の法的性格をめぐって —

資料

ローザ・ルクセンブルク『ポーランドの産業的發展』

(Rosa Luxemburg, Die industrielle Entwicklung

Polens, Leipzig 1898, IV+95) 肥前 栄一

国際通貨基金 (MF) についての覚え書き 三宅 義夫

紹介

マルクスの「恐慌ノート(一八五七—五八年)」 川鍋 正敏

第二十卷 第三号 昭和四十一年十二月

論文

マルクスの地代範疇への批判に対する一反論 井上 周八

— 新沢・山岡氏の所説によせて —

「人間の運輸」について 井田喜久治

流通手段の前貸と資本の前貸 (中) 久留間 健

再生産論 (『資本論』二卷三篇) の成立

について (完) 水谷 謙治

近代的所有権の構成と形成 (四) 宮川 澄

—日本民法における所有権の法的性格をめぐって—

研究ノート

勘定学説研究についての覚え書……………茂木 虎雄

—勘定学説研究の方法を中心として—

資料

国際通貨基金 (MF) についての覚え書き(一)……………三宅 義夫

国際社会史研究所蔵

マルクス・エンゲルスの草稿および

読書ノート目録……………川鍋 正敏

第二十卷 第四号 昭和四十二年一月

論文

貨幣生成の理論について……………小林 威雄

流通手段の前貸と資本の前貸(下)……………久留間 健

「人間の運輸」について(完)……………井田喜久治

リスト「農地制度」の前史と周辺(二)……………小林 昇

—文献的注釈—

企業の投資決定論の基本的性格(完)……………高橋 昭三

—割引現金流入法をめぐる諸問題の検討を中心として—

近代的所有権の構成と形成(完)……………宮川 澄

—日本民法における所有権の法的性格をめぐって—

資料

国際通貨基金 (MF) についての覚え書き(三)……………三宅 義夫

第二十一卷 第一号 昭和四十二年五月

論文

正しい批判はいかにあるべきか……………山本二三丸

—教条主義批判を装った修正主義—

「サーヴィス」について……………井田喜久治

十七世紀初頭のオランダにおける会計事情……………茂木 虎雄

—近代会計成立過程の一齣—

リスト「農地制度」の前史と周辺(三)……………小林 昇

—文献的注釈—

研究ノート

土地物神について……………井上 周八

資料

B. & L. Bailyn: *Massachusetts Shipping*

1697—1714, *A Statistical Study, 1959*…宇治田富造

R・J・ラーナー「最大二〇〇会社(金融会社を除く)

における所有と支配、一九二九年と一九六三年との

比較……………三戸 公

第二十一卷 第二号 昭和四十二年七月

論文

正しい批判はいかにあるべきか(二)……………山本二三丸

—教条主義批判を装った修正主義—

貨幣生成の必然性……………小林 威雄

研究ノート

外国貿易の理論的位置づけについて(上)……………丹羽 克治

—世界經濟論の方法の問題によせて—

「目標管理体制」批判……………敷田 禮二

—予算制度のさいぎんの傾向と関連して—

ドイツ「三月革命」期の独占問題(完)……………肥前 栄一

—「プロイセン王立海外貿易会社」をめぐって—

書評 鷗川馨著『中世英国世俗領の研究』……………山田 欣吾

三戸公著『アメリカ経営思想批判』……………武村 勇

山之内靖著『イギリス産業革命の史的分析』……………小林 昇

第二十一巻 第三号 昭和四十二年十二月

論文

マルクス紙幣減価論の理解のために……………久留間 健

正しい批判はいかにあるべきか(三)……………山本二三丸

—教条主義批判を装った修正主義—

租税特別措置の形成と構造(上)……………和田 八束

十九世紀会計史の構図……………茂木 虎雄

明治初年の土地所有権の法的性格について……………宮川 澄

研究ノート

外国貿易の理論的位置づけについて(下)……………丹羽 克治

—世界統済論の方法の問題によせて—

第二十一巻 第四号 昭和四十三年一月

論文

現代日本の米価問題……………井上 周八

—その「虚偽」と「真実」—

銀行経営分析研究序説……………荒川 邦寿

—「統一銀行経理基準」をめぐって—

明治初年の土地所有権の法的性格について(二)……………宮川 澄

正しい批判はいかにあるべきか(四)……………山本二三丸

—教条主義批判を装った修正主義—

紹介

HIROSHI MIZUTA : ADAM SMITH'S LIBRARY

A Supplement to Bonar's Catalogue with a

Check-list of the whole Library……………小林 昇

書評

加藤誠一著『中小企業の国際比較』……………水野 武

福島裕著『人民公社』……………池田 顕昭

第二十二巻 第一号 昭和四十三年五月

論文

会計史学の生成と発達……………茂木 虎雄

現代日本の米価問題(続・完)……………井上 周八

—その「虚偽」と「真実」—

明治初年の土地所有権の法的性格について(三)……………宮川 澄

正しい批判はいかにあるべきか(五)……………山本二三丸

—教条主義批判を装った修正主義—

第二十二巻 第二号 昭和四十三年七月

論文

現代日本の米価問題……………井上 周八

「差額地代」と「価値」……………井上 周八

—白杉庄一郎教授の所説に關連して—

中世英國の農民保有地と農家相続……………鷗川 馨

青年リストとロイトリンゲン……………小林 昇

租税特別措置の形成と構造(中)……………和田 八束

明治初年の土地所有權の法的性格について(四)……………宮川 澄

會計史学の生成と發達(統・完)……………茂木 虎雄

第二十二卷 第三号 昭和四十三年十二月

論文

正しい批判はいにかあるべきか(六)……………山本二三丸

—教条主義批判を装った修正主義—

「差額地代」と「価値」(二)……………井上 周八

—白杉庄一郎教授の所説に關連して—

明治初年の土地所有權の法的性格について(五)……………宮川 澄

租税特別措置の形成と構造(下)……………和田 八束

資料

ポウルトンウォット文書について……………大河内曉男

第二十二卷 第四号 昭和四十四年二月

論文

「差額地代」と「価値」(三)……………井上 周八

—白杉庄一郎教授の所説に關連して—

正しい批判はいにかあるべきか(七)……………山本二三丸

—教条主義批判を装った修正主義—

明治初年の土地所有權の法的性格について(完)……………宮川 澄

紹介

イギリス経営史の一動向……………大河内曉男

—M・W・フリン教授の所説をめぐって—

第二十三卷 第一号 昭和四十四年五月

論文

イギリス産業革命期の企業構想……………大河内曉男

—マッシュウ・ポウルトンの場合—

商業利潤再論……………井田喜久治

—森下氏の反論にかんれんして—

利子生み資本と資本の物神性(上)……………寺田 稔

—宇野弘藏氏の所説によせて—

「差額地代」と「価値」(四)……………井上 周八

—白杉庄一郎教授の所説に關連して—

青年リストとロイトリンゲン(二)……………小林 昇

正しい批判はいにかあるべきか(八)……………山本二三丸

—教条主義批判を装った修正主義—

研究ノート

資産論研究……………茂木 虎雄

—戦後、會計学の再建過程における

「資産本質論争」を中心として—

書評

井上周八著『日本資本主義の米価問題』……………白川 清

第二十三卷 第二号 昭和四十四年七月

論文

『経済学批判要綱』における資本の流通過程(上)……水谷 謙治

—流動資本と固定資本の諸規定の検討を中心として—

イギリス産業革命期の企業構想(二)……大河内曉男

—マッシュウ・ポウルトンの場合—

「差額地代」と「価値」(五)……井上 周八

—白杉庄一郎教授の所説に関連して—

正しい批判はいかにあるべきか(九)……山本二三丸

—教条主義批判を装った修正主義—

利子生み資本の物神性(下)……寺田 稔

—宇野弘藏氏の所説によせて—

第二十三卷 第三号 昭和四十四年十二月

論文

会計史方法論の検討……茂木 虎雄

「差額地代」と「価値」(六)……井上 周八

—白杉庄一郎教授の所説に関連して—

正しい批判はいかにあるべきか(十)……山本二三丸

—教条主義批判を装った修正主義—

研究ノート

戦後日本の製粉工業(上)……中内 清人

—従属的国家独占資本による再編過程—

第二十三卷 第四号 昭和四十五年一月

論文

『経済学批判要綱』における資本の流通過程(下)……水谷 謙治

—流動資本と固定資本の諸規定の検討を中心として—

「差額地代」と「価値」(七)……井上 周八

—白杉庄一郎教授の所説に関連して—

正しい批判はいかにあるべきか(十一)……山本二三丸

—教条主義批判を装った修正主義—

研究ノート

戦後日本の製粉工業(下)……中内 清人

—従属的国家独占資本による再編経過—

書評

小林威雄著『貨幣の基礎理論』……遠藤 茂雄

F・シェラー著・戸田義郎監訳・安平昭二訳

『複式簿記の基礎理論』……茂木 虎雄

第二十四卷 第一号 昭和四十五年五月

論文

権限の源泉について……三戸 公

産業革命期イギリスにおける減価償却の成立過程……大河内曉男

—ポウルトン・ウォット商会の事例—

浅合勘定論の学説史的吟味……茂木 虎雄

正しい批判はいかにあるべきか(完)……山本二三丸

—教条主義批判を装った修正主義—

「差額地代」と「価値」(八・完)……井上 周八

—白杉庄一教授の所説に關連して—

書評

茂木虎雄著『近代會計成立史論』……………井上 清

資料

『大学問題』にかんする経済学部資料……………経済学部教授会

—一九六九年五月〜一九七〇年—

第二十四卷 第二号 昭和四十五年八月

論文

経済学における形態規定とはなにか(一)……………山本二三丸

—いわゆる「宇野理論」の性格規定—

ジョウジフ・マッシーの学史的位罫……………小林 昇

—三上隆三『近代利子論の成立』

—(一九六九年・未来社)によせて—

サイモンのオーソリティー論について……………三戸 公

「価値形態論」論争……………井上 周八

低開發国の經濟發展と國家資本主義……………丹羽 克治

—「非資本主義的發展の道」論の検討—

混合勘定論の学説史的吟味(二)……………茂木 虎雄

—「人的勘定学説」を中心として—

研究ノート

『経済学批判要綱』における

再生産論に關する諸論述の検討……………水谷 謙治

書評

敷田禮二著『管理會計批判—

戦後日米資本主義史と蓄積手段—』……………野村 秀和

和田八束著『現代日本の地方財政』……………坂本 忠次

下坂源太郎教授記念号

第二十四卷 第三号 昭和四十五年十二月

論文

「資金」について……………小林 威雄

—宇野弘藏氏の所説によせて—

スミスの「価値論」と「地代論」……………井上 周八

経済学における形態規定とはなにか(二)……………山本二三丸

—いわゆる「宇野理論」の性格規定—

低開發国の經濟發展と國家資本主義……………丹羽 克治

—「非資本主義的發展の道」論の検討—

混合勘定論の学説史的吟味(三)……………茂木 虎雄

—「物的勘定学説」を中心として—

研究ノート

経営計画とオンライン・システム(一)……………敷田 禮二

マルクスの株式会社論についての一考察……………寺田 稔

—中村通義氏の所説によせて—

下坂源太郎教授略歴

第二十四卷 第四号 昭和四十六年一月

藤田武夫教授記念号

論文

経済と政治との関連の問題(一)……………山本二三丸

— いわゆる「トロツキズム」の性格規定—

自由論……………三戸 公

— ドラッカー研究のうち—

「遊休資金」について……………小林 威雄

— 宇野弘蔵氏の所説によせて—

リカードの「価値論」と「地代論」……………井上 周八

低開発国の経済発展と国家資本主義(三)……………丹羽 克治

— 「非資本主義的發展の道」論の検討—

藤田武夫教授略歴・業績目録

第二十五卷 第一号 昭和四十六年五月

論 文

近代的協同組合に関する一考察……………岡野 昇一

転換期の米価・食管制(上)……………井上 周八

全般的機論の方法(上)……………久保田 順

— 戦後世界経済分析の基本的視座—

経済と政治との関連の問題(二)……………山本二三丸

— いわゆる「トロツキズム」の性格規定—

研究ノート

経営計画とオンライン・システム(二)……………敷田 禮二

書 評

西川考治郎著『日本簿記史談』……………茂木 虎雄

大崎平八郎・久保田順著

『世界経済論—体制危機の展開過程—』……………清水 嘉治

荒川邦寿著『日本の会社財務諸表』

『現代アメリカの会計理論』……………河合信雄・加藤盛弘

和田八束著『現代租税論』……………北野 弘久

第二十五卷 第二号 昭和四十六年七月

論 文

資本制的生産様式における「労働疎外」

の考究(一)……………水谷 謙治

経済と政治との関連の問題(三)……………山本二三丸

— いわゆる「トロツキズム」の性格規定—

転換期の米価・食管制(下)……………井上 周八

低開発国の経済発展と国家資本主義(完)……………丹羽 克治

— 「非資本主義的發展の道」論の検討—

第二十五卷 第三号 昭和四十六年十一月

小川徳治教授 記念号

論 文

現代ホテル企業……………品田 誠平

日本における所有権意識の

形成過程と近代法学の継受(一)……………宮川 澄

価値尺度について……………小林 威雄

— 宇野弘蔵氏の所説によせて—

単純労働……………山本二三丸

経済と政治との関連の問題(四)……………

—いわゆる「トロツキズム」の性格規定—
ラントオニイ修道院の地代帳…………… 鶴川 馨
研究ノート

『資本制生産に先行する諸形態』について(一)…………… 井上 周八
擬制資本について…………… 寺田 稔

—株式会社の資本との関連を中心にして—
戦後日本鉄鋼業の生産構造…………… 中内 清人
資料

日本会計史論の展開と課題…………… 茂木 虎雄
—研究史と展望—

第二十五卷 第四号 昭和四十七年二月

論文

経済と政治との関連の問題(五)…………… 山本二三丸
—いわゆる「トロツキズム」の性格規定—

資本制的生産様式における「労働疎外」
の考究(二)…………… 水谷 謙治

—戦後世界経済分析の基本的規座—
全般的危機論の方法(中)…………… 久保田 順
研究ノート

『資本制生産に先行する諸形態』について(二)…………… 井上 周八

資料

「高度経済成長」過程における播州機業…………… 中内 清人

第二十六卷 第一号 昭和四十七年五月

論文

商業利潤補論…………… 井田喜久治
—流通費と物価の根本問題—

日本における所有権意識の
形成過程と近代法学の継受(二)…………… 宮川 澄

資本制的生産様式における「労働疎外」
の考究(三)…………… 水谷 謙治

経済と政治との関連の問題(六)…………… 山本二三丸
—いわゆる「トロツキズム」の性格規定—

研究ノート
『資本制生産に先行する諸形態』について(三)…………… 井上 周八

第二十六卷 第二号 昭和四十七年七月

論文

重商主義から重金主義へ…………… 小林 昇
—川島信義者『ステュアート研究』について—

不熟練労働…………… 大木 啓次
資本制的生産様式における

「労働疎外」の考究(四)…………… 水谷 謙治
経済と政治との関連の問題(七)…………… 山本二三丸

—いわゆる「トロツキズム」の性格規定—
日本における所有権意識の
形成過程と近代法学の継受(三)…………… 宮川 澄

研究ノート

ドイツ会計理論の現代的即応…………… 荒川 邦寿

「中小経営存続・更新説」批判…………… 中内 清人

ヒルファディングの株式会社論についての一考察 寺田 稔

―株主と貨幣資本家の関係を中心について―

帝国主義把握の基本的視角…………… 古田秋太郎

『資本制生産に先行する諸形態』について(四)…………… 井上 周八

書評

山本二三丸著『経済学概論』…………… 久野 重明

宇治田富造著『重商主義植民地体制論Ⅱ』…………… 宮野 啓二

荒川邦寿著『企業会計の基礎理論』…………… 服部 俊治

第二十六卷 第三号 昭和四十七年十二月

論文

資本制的生産様式における「労働疎外」

の考究(五)

…………… 水谷 謙治

経済と政治との関連の問題(八)…………… 山本二三丸

―いわゆる「トロツキズム」の性格規定―

研究ノート

『資本制生産に先行する諸形態』について(五)…………… 井上 周八

経営計画とオンライン・システム(三)…………… 敷田 禮二

書評

敷田礼二編『企業簿記批判』…………… 酒井 文雄

第二十六卷 第四号 昭和四十八年一月

論文

人間、その行動…………… 三戸 公

―バーナード理論の基礎―

経済と政治との関連の問題(九)…………… 山本二三丸

―いわゆる「トロツキズム」の性格規定―

日本における所有権意識の

形成過程と近代法学の継受(四)…………… 宮川 澄

資本制的生産様式における「労働疎外」

の考究(完)

…………… 水谷 謙治

研究ノート

『資本制生産に先行する諸形態』

について(六・完)…………… 井上 周八

第二十七卷 第一号 昭和四十八年五月

論文

産業における官僚制の成立…………… 三戸 公

―マルクスの所論を中心として―

「労働時間」と「価値」…………… 井上 周八

経済と政治との関連の問題(十)…………… 山本二三丸

―いわゆる「トロツキズム」の性格規定―

日本における所有権意識の

形成過程と近代法学の継受(五)…………… 宮川 澄

第二十七卷 第二号 昭和四十八年七月

論文

商業労働…………… 井田喜久治

—「流通革命」の理論的基礎づけのために—
全般的危機論の方法(下)……………久保田 順

—戦後世界経済分析の基本的視座—
経済と政治との関連の問題(十一)……………山本二三丸
—いわゆる「トロツキズム」の性格規定—

日本における所有権意識の
形成過程と近代法学の継受(六)……………宮川 澄
刑法「改正」と労働者及び労働組合の権利(二)……………宮島 尚史
—近代刑法の反労働者の本質—

第二十七卷 第三号 昭和四十八年十二月

論文

租税特別措置批判……………和田 八束

「流通費の資本化」論の終焉……………井田喜久治

—商業労働の正しい把握のために—
刑法・少年法「改正」と
労働者及び労働組合の権利(二)……………宮島 尚史
—近代刑法の反労働者の本質—

—近代刑法の反労働者の本質—
経済と政治との関連の問題(十二)……………山本二三丸
—いわゆる「トロツキズム」の性格規定—

日本における所有権意識の
形成過程と近代法学の継受(完)……………宮川 澄

研究ノート
分業についての経済学的考察(前編)……………原田 実

—社会主義社会における「分業廃棄」

の問題の検討のために—

第二十七卷 第四号 昭和四十九年二月

論文

経済と政治との関連の問題(十三)……………山本二三丸

—いわゆる「トロツキズム」の性格規定—
刑法・少年法「改正」と
労働者及び労働組合の権利(三)……………宮島 尚史
—近代刑法の反労働者の本質—

研究ノート

分業についての経済学的考察(後編)……………原田 実

—社会主義における「分業廃棄」

の問題の検討のために—

資料

複式簿記の勘定理論の新展開……………茂木 虎雄

—安平昭二教授の研究によせて—

第二十八卷 第一号 昭和四十九年五月

論文

差額地代の価値的基礎について……………井上 周八

—久留島陽三教授の著書『地代論研究』によせて—
刑法・少年法「改正」と労働者
及び労働組合の権利(四)……………宮島 尚史
—近代刑法の反労働者の本質—

経済と政治との関連の問題(十四)……………山本二三丸

— いわゆる「トロツキズム」の性格規定—

研究ノート

ヒルファディングの創業利得論……………寺田 稔

書評

小島男佐夫著『英国簿記発達史』……………茂木 虎雄

第二十八卷 第二号 昭和四十九年七月

論文

わが国農協の発展といわゆる

系統三段階制問題について……………岡野 昇一

発展途上国の工業化の現状と問題点……………古田秋太郎

経済と政治との関連の問題(完)……………山本二三丸

— いわゆる「トロツキズム」の性格規定—

刑法・少年法「改正」と労働者

及び労働組合の権利(五)……………宮島 尚史

— 近代刑法の反労働者的本質—

研究ノート

日本農政の新局面とGNP信仰の崩壊……………井上 周八

マルクス恐慌論研究序説(前編)

— マルクスとリカード・シスモンディ

ならびにJ・ミルの恐慌把握の検討— 高橋順三郎

書評

水谷謙治『労働疎外とマルクス経済学』……………杉原 四郎